

8月25日(土)

西多摩教組連続講座

# 五日市憲法を訪ねて

・講師 村山 正栄さん (小学校講師)

・集合 武蔵五日市駅 9時



五日市憲法の碑



内山安兵衛墓

〈当日のスケジュール〉  
武蔵五日市駅 —— まいまい坂 ——  
深沢(旧深沢権八家) —— 五日市憲法碑  
—— 内山安兵衛墓 —— 昼食交流  
会(解散)

五日市憲法とは  
1968(昭 43)年に東京経済大学色川大吉教授らによって深沢家土蔵から発見された憲法草案。人権主義・立憲主義の観点から書かれ、全 204 条から成る。教授らは五日市の人たちが討議して作られたものとして「五日市憲法」と名づけた。成立は 1880(明 13)年頃か？

「なぜ五日市の山奥で憲法草案が発見されたの？」誰もが感じる疑問ですが、村山氏は「五日市での草案発見は偶然ではない。」と答える。自由民権運動が五日市など多摩地区で興隆した理由はなぜか？石井道郎氏の「場の理論」等を根拠に解き明かします。1866 年名栗村で起こった武州世直し一揆の軍勢をまいまい坂で農民鉄砲隊を組織して追い払った大富豪内山安兵衛。やがてなぜか部落出身山上卓樹に影響を受け、菩提寺を離れて独自の墓を建立。当時の下層農民の生活はどうだったのか？さまざまな出来事をもとに想像をめぐらしましょう。